

2019年11月27日(水)

福島ファイヤーボンズ「財務発表記者会見」  
代表取締役 宮田英治記者会見コメント全文

本日はお忙しい中突然の記者会見にも関わらず、多数の方にお集まりいただきありがとうございます。福島ファイヤーボンズも B.LEAGUE となり3年が終わりまして、現在4シーズン目を迎えたところですが、昨シーズンに関しては、今回同席いただいた B.LEAGUE 専務執行役員浜様のご指導をいただきまして、クラブ創設としては初めて単年度の黒字化を達成することができました。

なお、B.LEAGUE にはライセンス規定というものがございまして、B1・B2 それぞれのクラブライセンスを取得しなければ、リーグの中に入ることができないルールがあります。

昨シーズンに関しては、3期連続の赤字がある場合には B2 のライセンスが付与されないというルールがあり、弊社としては単年度黒字化を目指していくということで、昨シーズンの財務状況をお話しますと、売上が2億1,600万円、そしてコストを前年より2,300万円削減しまして、なんとか多少ですが黒字化できたところでございます。

もう一つライセンスの規定のなかで、債務超過を解消しなければいけないというルールがあります。こちらについては2020年6月決算の数字として債務超過の解消をしなければならないということです。先日(25日)B.LEAGUE より発表があった通り、弊社の債務超過は6,300万円となります。これを解消していくことは非常にハードルが高く、その達成に向けてはかなり難しい道なのですが、今シーズンから B.LEAGUE にもご尽力いただき、色々なアドバイスをいただきながら、事業計画を進め開幕を迎えてから2ヶ月が経過したところでございます。

現状の数字でございますが、債務超過解消に向けては、利益を増やしていく方法と資本金の増資をしていく方法の両輪で今動いています。今シーズンの売上については、事業計画よりややショートしている状況です。

原因としましては、スポンサー収入については、新規のスポンサー様は増えてはおりますが、昨今の経済環境を受けて契約金額が減少している、例えば前年100万円が50万円になってしまっている等です。ただ、福島ファイヤーボンズを応援していくということでスポンサー契約の継続や新規契約もあります。しかし、目標としているスポンサー収入に対してはショートしてしまっているということです。チケット売上は、今回台風19号の影響もあり、田村開催が両日中止となりました。我々は毎節のチケット売上を計画していますが、10月が目標よりかなり下回ってしまいました。開幕戦に関しましては、宝来屋郡山総合体育館で過去のシーズンの中で最多人数2600人を超えるお客様に来ていただき、本当に良いスタートダッシュができたと思いましたが、次のホーム戦のところでも台風19号により田村市開催が中止、その後の猪苗代町開催も含めて、まだまだ台風19号の影響もあってか猪苗代町開催の土曜日が350人、逆に言うと開幕戦で過去最高を達成したのに対して、猪苗代で過去最低の観客人数になってしまっ

た。当然、すべてが台風の影響ではありませんが、厳しい状況でございます。もちろんチケット営業を行っていましたが、結果として福島開催においても両日ともに1,000人を超えなかったことなど苦戦をしている状況でございます。

現状の数字として、このまま何もしないで続けていく場合、6,300万円の債務超過解消に対して、2,000万円強しか解消できない。つまり、4,000万円足りないという状況です。この4,000万円をゼロにするために活動しております。その一つとして増資(資本強化)を進めております。ご理解をいただいた既存株主様の増資や新規株主様の協力もあり、なんとか積み上げが進んでいる状況です。

ただし、やはり足りないところがありますので、今、リーグのご協力をいただいて、スポンサー営業・増資を首都圏の企業様、一番良いのは福島県にゆかりのある、福島県出身の社長様など福島ファイヤーボンズの活動に対してご理解をいただける企業様へ安定した経営をしていくためにお願いをしております。

当然チケット(集客)対策としては、お得感のある回数券の販売やハーフシーズンパスの販売をスタートさせていただきます。

そして、この後ホームページなどで準備をして発表させていただきますが、これでも正直足りないという実感がありますので、大変恐縮ではありますが、福島ファイヤーボンズのファンの皆様方に、「ボンズ応援募金(仮)」というものを私どもで銀行口座を指定させていただいて、そこに応援募金として支援していただくという施策を考えております。

6,300万円という金額は本当に大きな金額であり、本来であれば1年で解消できる金額でないことは経営者として理解しております。

ただし、ここまでB.LEAGUEにも非常にご協力いただいているので、なんとかB2に残る施策をやるだけやっていきたいと思っております。

本当に私どもは3.11がきっかけで創設したクラブでありますし、やはりこの福島県に10年、20年残していくことが大事なことだと想っておりますので、やることを一生懸命やらせていただいてこの金額を解消すべくやっていきます。

具体的なことはB.LEAGUEの指導、あとは全国の各クラブの成功事例を直接各社長様より聞いておりますのでそれらを参考にしながら進めていきたいと考えております。